

発刊によせて

我が東洋思想研究所は、本年、創立十五周年の佳節を迎える。この研究所は、二〇〇七年十二月、東日本国際大学内に設置された東洋思想研究会を淵源とする。二〇〇九年より正式に東洋思想研究所として発足し、以来十五年の歳月を重ねてきた。

この間、東日本大震災やコロナ禍など、幾多の困難に見舞われた。しかし、そのなかで所員一同、一致団結して、研究所の活動を軌道に乗せ、質量共に内外に誇れる陣容を整えることができた。お世話になった関係者の方々には、研究所を代表して衷心より感謝の意を表したいと思う。

当研究所の基幹活動を簡略に記すと、第一に本学の建学の精神を確認する毎年の孔子祭に中心にかかわってきた点が挙げられる。毎年の孔子祭の記念講演者は、日本や中国を代表する知識人の方々をお願いしている。その大半は、当研究所の招聘による。第二に、当研究所では市民対象の論語素読教室、学内の学生組織である論語部「いわき論語塾」の指導を行っている。これらは、地域社会に論語の精神を普及することに寄与するものと自負している。第三に、当研究所は国際交流にも力を注いでいる。中国の山東大学、韓国の成均館大学校との国際シンポジウムを定期的に開催し、東洋思想を基軸とした東アジアの文化興隆に取り組んでいる。第四に、当研究所は、本学の教育方針である「人間力の育成」を担うべく、全学必須の授業を担当している。そこで、有識者や各界で活躍する方々を招いて苦難を乗り越える心の教育を推進している。

このように、いまやこの研究所の活動は多岐にわたっている。研究部門も拡充され、東洋思想に関する蔵書もかなり充実してきた。広々とした陽当たりのいい所内には、教員のみならず学生たちの賑やかな声が絶えない。「朋あり、遠方より來たる、亦た樂しからずや」との論語の世界を感じ取るのは、私一人だろうか。

ともあれ、場所や人も定まらず、すべてが一からの出発であった十五年前を思い起こすと、まことに隔世の感がある。大学の研究所と言えば、アカデミズムの牙城といったイメージがある。だが、当研究所は学生と地域に密着し、教育のため、社会のための研究という方針を固めつつ、着実に運営されてきた。その結果、最前線の研究と人生を豊かにする教育実践が共存する、独自の学風が醸成されたのである。

進歩を至上とする現代文明を、常に人間という原点に立ち戻らせる。二十一世紀の東洋思想には、この重大な任務があるといえよう。それを思うと、当研究所も、いよいよこれからである。十五年の歩みは、まだ助走にすぎない。二十年、五十年、百年を目指し、文明論的な大局的見地に立つて前進してまいりたい。

令和六年二月

東日本国際大学
東洋思想研究所長

松 岡 幹 夫